

夢を見るネコ

志賀 雷太

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

自称エレガントなネコが、対人（対動物）関係のちよつとした不満をグチりつつ、眠りにつく話です。

※この作品は「小説家になろう」「pixiv」に重複投稿しています。

目次

夢を見るネコ

1

夢を見るネコ

この世界に、ネコは星の数ほどいるけれど、その中でも私はかなりのべっぴんさんだ
と思うの。

水たまりに映ったネコが自分なんだと知ったときは、それはもう飛び跳ねるぐらい驚
いたものよ。

……勘違いされては困るから、一応付け加えておくけれど……飛び跳ねるつてのは比
喩だから。私はいつだってエレガントな女なの。わかった？

……本当かしら？

まあいいわ。

ところで、あなたの方はどうなのかしら？

何がって……あなたがイヌの中ではどれぐらいカッコイイのかってことよ。

私の感覚からすると、あなたは中の中つてところだと思うのだけれど、あいにく、私

にはイヌの美的感覚がわからないのよ。

……そう。考えたこともなかったのね。

まあ、わかったところで私の感性が変化するわけでもないし、構わないのだけど。

……え？ 何よ、またなの？ もう！ 前にも言ったじゃない！

私、それ苦手なの。できればもつとおしとやかな遊びがいいわ。ごめんなさい。

……特に代案がなければ、今日はここで開きにしましょう。また明日ね。

(……だって、仕方ないじゃない……私はネコで、あなたはイヌなのだから)

・
・
・

はあああああああああ……暖かくて……気持ちいい……眠くなつてきちやう

……やっぱり、冬のおこたは最高ね！

私たちネコは当然のことだとして、人間もおこたが大好きみたい。

わかるわ。

でも、先客がいるのを確認もしないで足を突っ込むのは止めてよね。まるでマナーがなっていないわ。この私を見習いなさい。

ま、いくら注意したところでわかってくれないのが人間だものね。もう諦めたわ。こういうときにはあいつに愚痴を聴いてもらいたいだけけれど。

……んっしょ……はあ、おこたの外は寒いわね。

さて、あいつはどこかしら……うーん……こっちではない……あ、いたわ……って、げ！

……ここ、こほん。

あら、これだけ寒いのお外で走り回っているなんて……やっぱり毛皮の違いかしら？
ちよつとだけ羨ましいじゃない。

よく見たら雪が積もっているわね……ということとは、肉球にも違いがあるのかしら？
って、そういう分析はしなくていいのよ！

まったく……ホント、あいつは元気でいいわね。

……お外、大好きだものね。

私は真逆よ。家の中でじっとしているのが好き。

だから、私とあいつは、反りが合わない。

私だって、散歩に出かけたくなるときがある。

ただのんびり歩いたり、狭いところを探したり、体型を維持するための運動をしたり。いつもそんな感じね。

でも、たまに下品なやつらと出くわすこともあったりして、そういう日はいつも以上に疲れちゃうの。

私がおでかけから帰ってくると、あいつは一番にお帰りと言ってくれて、そして、自分の水入れを私に使わせてくれる。

あいつにはそういうところがある。

他にも、人間が何かを失くしてしまったと騒いでいると、あいつはそれが何なのかもよくわかっていないのに、あちこちを探して回るのよ。

あいつはそういうやつだと、私は知っている。

・
・
・

私が塀の上でひなたぼっこしていたとき、あいつは私を遊びに誘いに来るの。

私はそれに付き合っただけの日もあれば、そうじゃない日もあるわ。

遊んであげると、私は決まって疲れてしまい、終わった途端に寢床へ向かって一直線よ。

それで、私は意識が落ちるぎりぎりまで、遊びに付き合ったことを後悔したり、感謝したり……。

そうしていると、こんな考えが思い浮かぶの。

私はなんで、あいつと遊ぶとこんなにも疲れてしまうのかと。

もしも……もしも最後まで疲れきらずにいられたのなら……毎日だって、あいつと遊んであげられるのに……。

そうしたらきつと……毎日が……もつと……楽しく……なる……のに……。

「……また遊ぼうね。おやすみ」